

T

R

O

P

E

R

L

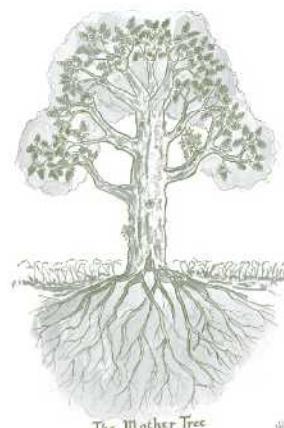
A

U

N

N

A



小さな森からはじまった森の再生活動

ご支援よろしくお願ひいたします

アファンの森財団では、
活動をサポートしてくださる会員を
募集しています。

年会費は、野生動物の調査研究に基づいた森
の維持管理活動のために有効に利用させてい
ただきます。

アファン会員 1口 5,000円

賛助会員 1口 50,000円

アファンの森を広げていくための
トラストにご協力をお願いします。

トラスト募金 1口 3,000円(約1坪分)

お申込方法

郵便振替用紙の通信欄に会員種別(アファン
会員、賛助会員、トラスト募金、寄附)を明記の
うえ下記口座までお振込ください。確認でき
次第、お礼状をお送りいたします。

郵便振替口座 00500-4-75650

口座名称 財団法人C.W.ニコル・アファンの森財団

お問い合わせ

ご支援、ご入会についてのお問い合わせはア
ファンの森財団事務局までお願いいたします。



財団法人 **C.W.ニコル・
アファンの森財団**
[2005年度 年次報告書]



ANNUAL REPORT IN DEX

2005年度年次報告書に寄せて アファンの森財団のビジョンと活動

森の再生

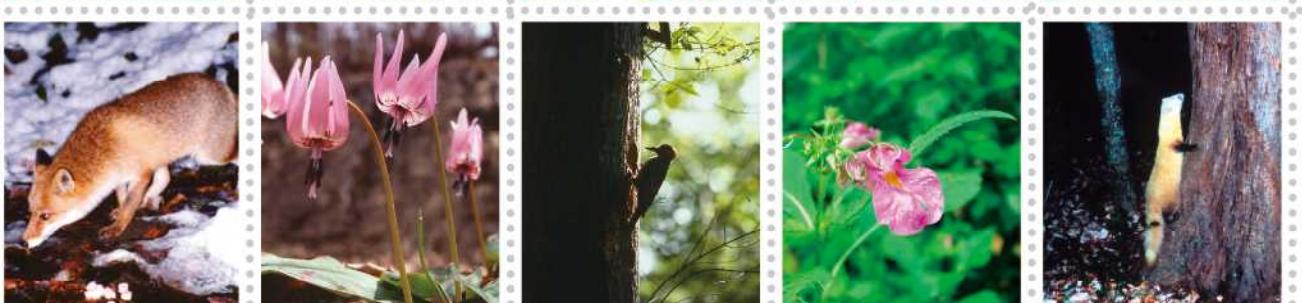
心の再生

活動履歴

取支報告

会員報告

森のグッズ



2005年度年次報告書に寄せて

財団法人C.W.ニコル・アファンの森財団理事長

THE C. W. NICOL AFAN WOODLAND TRUST

A few words from the chairman.



私達の財団が設立されて、4年になりました。

当初、見知らぬ人々や身近な人達からさえも、私の土地を財団へ寄付することは大変愚かなことだと思われました。それでも財団法人を設立したことは、私の66年の人生の中でもっとも賢明な決断のひとつだと思っています。財団は、多くの友人の輪、調査研究、様々な活動そして森林面積をも広げてきました。それら

はいつも素晴らしい楽しいことでした。

私が最も重要なことは、財団の考えが広く認知されたことです。私達はアファンの森での活動を記録し、目標を定め、多様で健康な森へと再生することを試みてきました。これらの活動自体が人々の人生をほんの少し幸せにし、もう少し未来を信じようと希望を与えるのだと思います。

私達の小さな森とウェールズのアファン森林公園との「姉妹森」というユニークなアイディアは、英国との絆を強め、ますますお互いに注目をしあってきています。ウェールズのアファン森林公園の「ウッドペッカーズ」クラブでは、英國在住の日本人家族を受け入れ、英國人家族と一緒に楽しく森での作業や調査活動をしました。現在、英國のメディアは日本での私達の活動に興味を示し始めています。今回、財団の理事に、英國で自然環境調査研究、保全、自然再生の分野においてエキスパートの中でもトップのアリストー・ドライバー氏（英國環境庁 自然保護局長）を迎えます。私にとって特に嬉しいことは、彼がボランティアとして参加してくれることです。彼の父上ビーター・ドライバー博士は1958年に私を初めてカナダの北極に連れてってくれた恩師であり、私はアリストーを彼がとても小さなころから知っています。アリストーの理事就任が英國と日本での新しく、ダイナミックなつながりになることを確信しています。

新しい道とアイディアが開かれました。これから10年で、私達が現在行っている活動方針や理念が、日本中で信頼され支持されることを私は信じています。

活動に助力やアドバイスをいただき、私達を信じてくれたすべての人々に心より深く感謝いたします。そしてすべてのスタッフ、彼らの熱意とハードワーク、特にたくさんの仕事を成し遂げてくれた私のパーソナル・マネージャーの森田いづみさんには感謝の言葉もありません。また、ウェールズ・カーディフのCELT21のサール・クリスチャンと奈都世さんの努力と励ましは忘れることはできません。すべての皆さんに感謝し、幸福をお祈りします。

C.W.ニコル

2006年5月25日

It has been four years since our trust has been officially established.

There have been people, some close, some strangers, who thought it very foolish of me to 'give away' all that land, however, I think that to establish the trust was one of the best and wisest decisions I have made in these sixty six years of life. With the activities of the trust we have widened our circle of friends, the scope of our research and activities, and even the actual land area. It has been immense fun most of the time.

I think that the most important aspect of it all is the widening recognition of the idea behind the trust. We try to bring back woods to a diverse and healthy life, to record what we have done, plan what we hope to achieve, and use it all to bring a little more happiness into people's lives, a little more trust in the future.

The unique idea of 'twinning' our little woods with the Afan Argoed Forest Park in Wales has strengthened our ties with Britain and we take more and more to take notice of each other. In Wales, through the Afan Forest Park, the 'Woodpeckers' club has brought Japanese families in friendly and rewarding touch with British families through joint forest works and studies. The British media is beginning to take interest in what we are doing here in Japan. We are soon to have a new member on our board, Alistair Driver, a leading British expert in nature research, conservation and in rebuilding natural habitats. It is particularly happy for me, because Alistair volunteered to join us, and because his father, Dr. Peter Driver, was the teacher who first took me into the Canadian arctic in 1958. I have known Alistair since he was a very little lad. I am sure that this will be a new and dynamic link between Britain and Japan.

New paths and ideas are opening up. I believe that in the next ten years the principles and policies what we are testing out will become respected and considered all over Japan.

From the bottom of my heart I thank all those who help, advise and believe in us. I thank all of our staff for their enthusiasm and hard work, with especial gratitude to my personal manager, Mrs. Izumi Morita for making so much of it possible. She has been our guardian angel. Not to be forgotten are the efforts and encouragement of Christain and Natsuyo Searle of Celt 21 in Cardiff, Wales. Thank you and bless you all!

C. W. Nicol
May 25th, 2006



森の再生活動

MISSION

1

トラスト活動 [ひろがる森]

アフアンの森が30%ひろがりました。

森を大きくすることは、より大きな生態系を再生すること。

トラスト基金のご協力により放置された森を今年度は、約11,500坪(37,833m²)拡張することができました。

トラストした森を整備することでより大きな森の生態系の再生を目指します。



2005年4月1日現在 126,143m²(約38,158坪)



2006年3月31日現在 163,976m²(約49,603坪)



生き物が逃げ出した場所を フクロウの棲める森へ

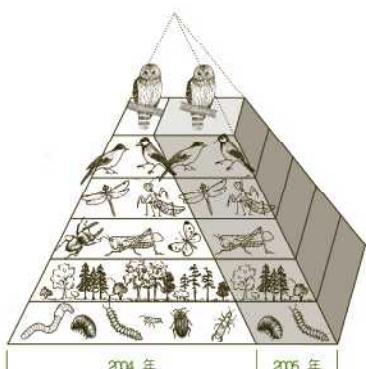
監事 吉田 寛
(公会計研究所・公認会計士)

かつてアフアンの森は、農地や薪炭林にもならずに放置された森でした。森は、窒息状態になり、カエルやイモリやトンボなど、多くの動植物が棲めなくなり、生態系ピラミッドは押しつぶされた状態になりました。

20年前からC.W.ニコル理事長が、少し土地を買い取り、生き物の少ない荒れた森の手入れを始めました。土地が広がり手入れをするごとに、カエルやイモリやトンボなど多くの生き物が戻ってきました。今ではフクロウが住み、ツキノワグマがドングリを食べに来るようにになりました。手入れをした森を生き物が評価したのです。

おしつぶされた生態ピラミッドは少しつつ再生し、そこに棲む生き物がつながることで、森はより高い多くの捕食者をもつ生態ピラミッドになります。今年30%増えた森の再生を始めればフ

トラストした森を整備することでより
大きな森の生態系の再生を目指します。



森の再生活動

MISSION

2

森林整備活動 [森をそだてる]

「森は人の手で豊かに甦る」

私たちは放置された森を整備し再生することを

活動の原点としています。ニコル理事長が

幽霊森と呼ばれ人も動物も寄せ付けなかった森を
整備し始めたのは1986年でした。当財団が引き継いだ後、

トラストにより少しづつ面積も広げてきました。

「森は人の手で豊かに蘇る」ことを実践する姿勢は、
20年目を迎えた今も変わりません。



雪害から苗木を守る

2004年5月に植樹した苗木について、
2005年の雪がとけた時に状況を調べ
たところ、幹折れなどの被害を受け
ていた苗木が半数以上確認できました。
そこで4月下旬から5月上旬にかけて
修復作業を施しました。幹の折れてい
る部分を元に戻し、添え木を当てて固
定しました。また、この結果を受けて
これらの苗木が再び雪で折れてしま
わないよう降雪前に補強、雪囲い作業
を行いました。

人から森を守るために ウッドチップ敷き

昨年度水路造成のために伐採した木を
チップにし、人の利用頻度が高いティ
ピー裏の広場および、湧き水からサウ
ンドシェルターまでの道を中心にチッ
プを敷く作業を行いました。人の踏圧
から地面を保護することを目的として
います。

チップを敷くことで、人工的な印象を
与えてしまうことも考えられますが、
見えない柵(チップの敷いている以外
の場所へは立ち入らない)効果もみら
れています。今後ゾーニングを考える
うえでの有効な手段ととらえています。



多様性を高める水路造成区へ植林

昨年度造成した水路周辺に植樹を行
ないました。アフアンの森で育った実生
苗(樹高3m以上のもの十数本含む)お
よび、地元の森林組合より購入した苗
木(樹高約2~25m)の苗木合計434本
を植樹しました。4月下旬から5月上
旬にかけて作業を行いました。



森を再生するための間伐作業

2003年6月にトラストした土地のうち、オニグルミ主体の林層(約0.6ヘクタール)を樹種転換するために、将来の収穫対象木及び希少木などを主に残し間伐を実施しました。周辺地域に生息する長寿命の樹種に転換するため、また、オニグルミ主体の林はアレロバシーが強く他の樹種と混交林になりにくいために間伐を行いました。伐採した木はウッドチップにして利用しています。

森の再生活動

MISSION

3

調査研究活動 [森を知る]

私たち「森の豊かさ」を次の3つの指針から考えています。



これらの指針について、森の環境を形成している水や生物などに森づくりの評価してもらう調査研究活動を実施しています。

多様性あふれる 日本になつかしい里山に

繁殖期の鳥類相調査から、森林種が全体の6割を占めていることから、森林に依存性が高く、環境への指標性の高い種が生息していることが特徴であることがわかりました。また、林縁性種が約3割を占め、アフアンの森には森林性一林縁性種が全体の約9割を占めたことから、これまでの森林整備作業が健全な里山環境を創り出していると考えられます。

また、2009年からの鳥類相の経年変化を見ると大きな変化は見られないことから、この3年間は整備作業しつつも、その多様性が保たれているといえます。



昨年度造成した 水路の水環境は良くない

底生生物の調査から中間報告であります、モンカゲロウ(水の汚濁に耐えられない種)とミズムシ(水の汚濁に強い種)に注目したところ、昨年度造成した水路ではミズムシが多数採集されました。一方、既存の水路では逆の採集結果となりました。モンカゲロウの生息環境(石の下に生息する)を考慮する必要がありますが、一般的に新設された水路は既存の水路よりも水環境は良くないといえます。また、新設して1年しか経過しておらず、工事の影響からの回復はあまり進んでいません。今後しばらくは手を加えないようにし、自然回復を待つのが望ましいと考えられます。



普及交流活動

MISSION

4

国際交流(姉妹森) [森を世界につなげる]

ニコル理事長の出身地ウェールズのアファン森林公園と2002年に「姉妹森」になりました。

森を世界につなげるために、森林そのものだけでなく、広い視野から森にまつわる人の暮らしなどの情報交換や、文化の交流を図りたいと考えています。



つながる森 英国ウェールズ↔日本 「カンジウッド」

英国・ウェールズアファン森林公園内は、日本の樹木で作られた「カンジウッド」という場所ができました。敷地内にある大きな漢字で作られた彫刻の後部には日本語、英語、ウェールズ語で「アファン森林公園は、日本のC.W.ニコル・アファンの森財団と姉妹森締結をした。この財団は、日本在住でニース出身のC.W.ニコル氏が理事長を務めている。地域及び日本人ボランティアの協力により、「人、森、生」の漢字を配してここカンジウッドの象徴とした。」と記されています。

MISSION

普及交流活動

5

人材育成活動

スポンサーであるリコーグループの社員親子を対象に、アファンの森での実体験をおよそ「生き物のつながり」に気づくプログラムを実施しました。リコー自然親子教室(7月)

また、同じく株式会社リコーの「リコー環境ボランティアリーダー」制度の研修の機会として、森林保全活動のレベルアップを目的に「森の教室」を実施しました。(9月)



普及交流活動

MISSION

6

情報発信



例年通り、多くの取材や視察等の対応や会員向けの見学会を実施してまいりました。さらに本年度初めて「会員の集い」を東京都内で実施しました。これまでの財団の活動報告及び展示などをを行い、ニコル理事長や松木常務理事が各テーブルを周ってお話をすると、会員同士や財団関係者との交流の場になりました。



心の再生

7

5センスプロジェクト [森の再生から心の再生へ]

豊かな森が、子ども達の心や体にどのように響いていくのだろうか…。



手を入れたアフアンの森には、さまざまな生き物が戻ってきました。豊かな森は数多くの命に溢れています。目にするもの全てが命そのものなのです。

都会での生活は大人だけでなく、子ども達にも大きなストレスを与えています。機能を優先した人工物に囲まれた生活は快いものではありません。私たち大人は、豊かな森に出かけると「心が癒される」ことを経験的に知っています。森林を歩くと心身がリフレッシュする、このことは科学的にも解明されてきました。

そんな森の効果は子ども達にもきっと伝わるはずです。自然に親しむ機会の少ない障害のある子ども達や、心に傷をもつ子ども達にもよい刺激になるはずです。

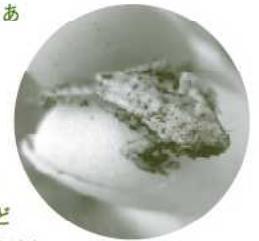
豊かな森が、子ども達の心や体にどのように響くのだろうか…。「アフアン“5センス”プロジェクト」は、こうして始まりました。



子ども達は、森を楽しんでいる大人とともに活動します。五感を刺激され、コミュニケーションしながら、ともに森での楽しい時間を過ごします。そんな時間は子ども達の心の扉を開いていきます。時には体全部を使ってアクティブに、時にはじっくりとスローベースで、五感を通して森のさまざまな効果が、開放された心に響いていきます。

森の生き物は、自身を生きています。豊かなアフアンの森では、命が他の生き物の命を支え、それらが複雑に関係しています。

人も決して例外ではなく、一人一人が大切な存在です。そんなメッセージが子ども達に伝わり、子ども達の新たな可能性が広がっていくことを願っています。



アフアン“心の森”プロジェクト

施設の子供たち、盲学校に通う子ども達をアフアンの森へ

『豊かな森で活動することは、人の心も豊かにする』ことを信じ、手さぐりで2年間活動してきた現在、この活動は次のような説明ができるまでに至りました。

心に何か詰まっているものがあるなら、自然の一瞬の出来事や他人との関わりでの出来事を受け止めることはで



ない、例えると「何か話をしたいことがあると他人の話は聞いていない」といえるでしょう。この活動は、豊かな自然環境の中で体全部で遊ぶことを通して、日頃抑えられているもの、抑えてしまっているものから解放し、詰まっているものをアウトプットする機会です。

その先に、他の生き物とのつながりや、自分の持つ可能性が発見でき、自分も周りの人も皆大切な存在であることに気づいてもらうことを目指しています。

心の成長

子ども達の「心の成長」は、関わる大人たちの「心の成長」と「思い」なくしては成り立たないことを実感する一年でした。また、その関わりが人工的

な空間で行われているのではなく、「思い」と「手」が注ぎ込まれ、生き物の関わりで成り立っている「アフアンの森」を中心に行われていることは、人の企てを越えて活動を豊かにしてくれると実感できた、実り多い一年でした。

心に傷を負った子ども達

児童養護施設の子ども達を対象に2泊3日のプログラムを実施しました。夏は黒姫の森とアフアンの森で森遊び、ツリークライミング、川遊びを。

雪はクロスカントリースキー、ソリ遊び、イグルー作りなどを通して、思いっきり楽しみ、心の解放を試みました。参加前と活動最終日に風景構成法を実施し、参加者の心の変化を知る試みでは、肯定的な変化を見ることができました。



盲学校に通う子ども達

1泊2日のプログラムを実施しました。アフアンの森で初めてあったスタッフとペアとなり、アフアンの森をじっくり散策することを中心に、森のお話し会、リズムセッションなどを行いました。終了後、自宅の山の手入れ方法を考えた手紙が届いたり、作文「森を守ろう」が環境作文コンクールで受賞したり、嬉しいニュースが聞こえできました。



アフアン“心の森”プロジェクト
日本アムウェイ株式会社
「One by Oneこども基金」と
財団法人C.W.ニコル・アフアンの森財団の
協働により実施されているもので、
2004年3月より活動しており、
これまでに13回実施しています。
(掲載写真はこのプロジェクトに同行
いただいている菅洋志氏の撮影です。)

活動の評価

活動終了後、アンケートの他に独自の「SD評価シート」を配布し回答にご協力をいただいています。森林環境で活動することの心身への効果について表そうという試みで、日常的に接している施設職員、家族が、参加した児童生徒の参加後の様子について回答いただいています。また、アートセラピストにご参加いただき、参加前と活動最終日で参加児童に風景構成法を実施しています。その作画からみた心の状態の変化により活動の評価をする試みを実施しています。いずれも肯定的な変化を見ることができました。

主な活動の履歴

森の再生		
2005年	4月5日	小鳥用巣箱清掃
	4~6月	フクロウ営巣調査
	4月29日~5月5日	水路造成地へ植林作業実施。苗木の雪害修復作業実施
		苗木状況調査
	5月8~9日	ウッドチップ敷き作業実施
	5月29日	鳥類相調査実施
	6月10日	コウモリ用巣箱設置
	7~10月	甲虫類トラップ調査実施
	7月9日	植物相調査実施
	7月10日	常設調査区の毎木調査実施。苗木計測作業実施
	7月23~24日	リコー親子教室実施
	7月24日	鳥類相調査実施
	8~12月	ヤマネ巣箱調査実施
	9~11月	堅果類生産量計測実施
	9月2~4日	リコー森の教室実施
	9月11日	鳥類相調査実施
	10月2日	鳥類相調査実施
	11月	底生生物調査実施
	11月12日	苗木の雪囲い作業実施
	11月13日	鳥類相調査実施
	12月~	気象観測開始
2006年	1月29日	鳥類相調査実施
	3月26日	鳥類相調査実施

心の再生

2005年	5月14~15日	アファン“心の森”プロジェクト(盲学校に通う子供たち)実施
	5月25日	長野養護学校訪問、研修
	6月4~5日	アファン“心の森”プロジェクト(アムウェイDB編)実施
	8月7~9日	アファン“心の森”プロジェクト(児童養護施設の子供たち)実施
	9月17~19日	アファン“心の森”プロジェクト(児童養護施設の子供たち)実施
	11月5~6日	アファン“心の森”プロジェクト(盲学校に通う子供たち)実施
2006年	3月29~31日	アファン“心の森”プロジェクト(児童養護施設の子供たち)実施

その他

2005年	4月12日	京都大学フィールド科学教育研究センター田中センター長ら来訪
	5月22日	会員見学会実施
	5月31日	理事会、評議員会実施
	6月23~24日	トヨタ白川郷自然学校訪問、研修
	6月25日	紀藤康子さん来訪
	6月29日	信濃町観光協会見学会実施
	7月31日	会員見学会実施
	9月24日	会員見学会実施
	10月15~16日	ビオトープ実践フィールド講座実施
	10月23日	会員見学会実施
	10月28日	ニコル理事長MBE叙勲式
	12月3日	会員の集い実施

2005年度収支報告

(2005年4月1日~2006年3月31日)

	2005年度	2004年度
活動収入	3,443万円	4,135万円
活動支出	3,175万円	3,886万円
トラスト募金額合計	3,231万円	297万円
トラスト支出額合計	2,669万円	5万円

アファンの森財団へのご支援は、トランク募金については事務局で隨時お預かりさせて頂き、森の購入資金として、会費やご寄附は各事業や財団の運営費に役立てられます。

アファンの森を守るための費用

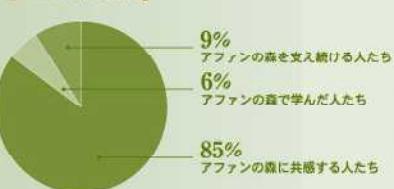
	2005年度	2004年度
【事業費】		
アファンの森を育てる (森林整備事業費)	6,898,000円	5,821,000円
アファンの森を調べる (調査研究事業費)	876,000円	1,097,000円
アファンの森を伝える (普及事業費)	1,193,000円	5,652,000円
アファンの森が世界と繋がる (国際交流事業費)	101,000円	462,000円
アファンの森が人を育てる (人材育成事業)	1,173,000円	1,597,000円
アファンの森が心を育てる (循環型社会事業)	9,850,000円	12,158,000円
事業費合計	20,091,000円	26,788,000円

【管理費】

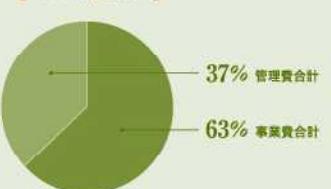
アファンの森を守る人たちへ (人件費)	7,877,000円	7,886,000円
アファンの森を守るために (運営費)	3,784,000円	4,187,000円
管理費合計		
管理費合計	11,661,000円	12,073,000円

費用合計 31,752,000円 38,861,000円

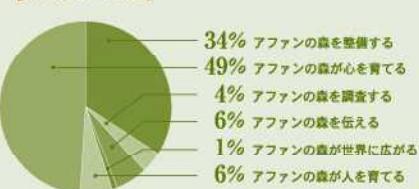
【2005年度収入】



【2005年度支出】



【事業費の内訳】



個人からのご支援について

会員の方からのお便り

アーファンの森財団への思い
会員 紀藤康子様からのお手紙



アーファンの森に寄せて
紀藤 康子

今から十数年前テレビ雑誌等で、
黒姫の里山を再生する活動を行っている、
C.W.ニコルさんという方を知りました。
私の心の中には、いつまでもそのことが印象深く残っていました。
平成14年秋、この活動が財団法人になっていることを知り、
私にも何かお手伝いができるかとすぐに会員になりました。

アーファンの森の見学会に参加し、
この森を広げていくお手伝いができればと思うようになりました。
その後ニコルさんとお目にかかることが出来、私の心が高まり、
より里山を、そしてアーファンの森を求めていくようになりました。
私は日本の国・社会に感謝の気持ちでいっぱいです。
ありがとうございます。健康な森が増えることにより、
私も元気をもらうことができます。うれしくさえも思います。
今後も、アーファンの森が成長されて栄えていくように、
私も力添えをと思っています。

※2005年度の森のトラストは、
紀藤様のご支援によりました。

口数	金額
賛助会員	85口 4,250,000円
アーファン会員	610口 3,050,000円

法人からのご支援について

現在、さまざまな企業と協力しながら活動を展開しています。

設立当初よりご支援いただいている法人・団体

株式会社リコー (賛助会員)

2005年度に50万円以上のご支援をいただいた法人・団体 (50音順 敬称略)

株式会社フェリシモ (ご寄附、トラスト募金)

株式会社リコー (賛助会員)

サンデン株式会社 (賛助会員)

ダイドードリンコ株式会社 甲信支店 (賛助会員)

日本アムウェイ株式会社 (ご寄附、事業協働)

日本ハム株式会社 (賛助会員)

ローラ アシュレイ ジャパン株式会社 (ご寄附)

財団法人C.W.ニコル・アーファンの森財団役員名

理事長 C.W.ニコル 作家

専務理事 森田いづみ (株)サンオフィス

常務理事 松木信義 林業家

理事 大槻幸一郎 千葉県副知事

〃 金子与止男 岩手県立大学教授

〃 高見裕一 グリーン・マーケティング協会代表

〃 谷達雄 (株)リコー 社会環境本部長

〃 野口理佐子 人と自然の研究所代表

〃 林秀剛 NPO法人信州ツキノワグマ研究会代表

〃 山瀬一裕 (財)自然環境研究センター専務理事

監事 畠田洋平 公認会計士

〃 吉田 寛 公会計研究所・公認会計士

評議員 梅崎義人 水産ジャーナリスト

〃 大熊孝 新潟大学工学部教授

〃 狩野誠 黒姫と漢業研究所代表取締役会長

〃 関口鉄夫 長野大学非常勤講師

〃 濑田信哉 (財)国立公園協会理事長

〃 武田徹 ジャーナリスト(つれづれ遊学会)

〃 茅野實 (社)長野県環境保全協会会長

〃 星野佳路 (株)星野リゾート代表取締役

〃 前河正昭 長野県環境保全研究所研究員

〃 前田利彦 農家

〃 横谷幸 CCC自然・文化創造会議/工場専務理事

アファンの森グッズ

アファンの森グッズをご紹介いたします。

それぞれの収益の一部が、財団の活動に活用されます。財団もまだまだ微力です。
ひとりでも多くの方のご理解とご賛同をいただければ幸いです。



アファン フィールドノート

アファンの森の案内冊子です。6穴のシステム手帳サイズに、大きなイラストで主な「木」や「鳥」、「甲虫」が紹介され、アファンの森の「特徴」をこれまでの「調査データ」に基づいて解説しています。点字版もあり、それぞれ「アファン心の森プロジェクト」の教材として使用しております。



ツキノワグマ携帯ストラップ

特定非営利活動法人日本ティベア協会と財団法人C.W.ニコル・アファンの森財団が提携し、制作しました。売上金の一部は、協会の「With Bear Fund テディベア基金」を通じて、アファンの森財団が行っている「ツキノワグマ生息動向調査」などの保護活動のために活用されます。



絵本「森にいこうよ!」

アファンの森で実際にあったさまざまな出来事を、ニコル理事長の文が語り、松岡さんの絵が見せてくれています。田中康夫長野県知事が監修したセンスのよい絵本です。



絵本「しつぽ」

杉野さん(押し花アーティスト)の押し花で描いた動物に、ニコル理事長が文を書きました。大人も子どもも楽しめます。



2006年度の活動とご支援のお願い

財団法人C.W.ニコル・アファンの森財団は、
「美しいアファンの森をこのまま残してゆくこと」
「豊かな森の存在意義を訴えること」
を使命に、様々な方にご協力頂きながら活動しております。

2006年度も、日本中の森がよみがえるための一歩となることを願い、「やっぱり豊かな森は必要なんだね」と実感できるような取り組みを地道に続けています。

アファンの森財団の活動は皆さまからのご支援により成り立っております。2006年度も引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

2006年度の活動計画

- ・トラスト完了地の藪刈り、整理伐
- ・水路、池の定期的な泥上げ作業
- ・フクロウの繁殖状況調査
- ・GISを有効利用した調査データの蓄積と解析、可視化
- ・大人を対象とした5センスプロジェクト
- ・生態系再生の数値化測定など

写真協力(50音順)・CELT 21・池田恭久・栗原建治・菅洋志・南健二

